

天極星

この星は人生にたとえますと、死を迎える時代、それが天極星の世界なのです。

人間は、いつの日にか死への旅路につかなければなりません。喜怒哀楽、さまざまな人生ドラマの終局であるのが天極星の世界です。

死は悲しいものです。喜びも・恨みも・憎しみも・感謝も、すべて水の流れの様に消えていくのです。

この瞬間において、人間はすべての役割から解放されて、「無」で表される「自由」が与えられるのです。

天極星の世界は、肉体も精神もすべて無です。そして時間はすぐになく、あるのは無限に広がる空間だけです。この死の瞬間における世界が、陰陽の差を消し、善惡の差・上下・貴賤、ときには親子・きょうだい、差さへ消してしまう、一次元構成の空間を形成するということになるのです。

この一次元思考法は、あらゆる事象に対し、格差・区分をしない感覚をもち、自由な思考回転ができる能力を有するのです。

この純粋な感覚は、他に類を見ません。また宗教に関係なく無の感性がよく未来を予測しますが、その神経は天胡星とは違い現実を超越しています。それが時として靈感作用となり得る能力を持たせることになるのです。

天極星中殺

元来、天極星は「技術」「靈感」「哲学」「宗教性」「技術的学問」などと、非常に幅広い分野にわたる意味合いを有している星世界なのです。

それだけに、この星が中殺されるということは、幅広い分野にわたって中殺の異常現象が生じる事になるのです。

とりわけ、その中でも「靈感力」に顕著に現れるのです。さらに、天極中殺は、無形なものを非常に好むようになるのが特色といえます。たとえば「神様」とか「天体の星」「宇宙の話」 「UFO(ユーフォー)」などといった無形なものにひかれていくのです。(天極中殺の人の靈感は「神のお告げ」といった他力的なもので天胡中殺のような勘が冴える性格のものではありません。いわゆる「何かが見えた」とか「聞こえた」といった類いの靈感……がそれです。)

なにしろ、無の世界の広がる度合いが中殺されるわけですから、その現象もさらに一段強いものになってくるのです。(天極中殺の人は、いわゆる純粋な生き方しか出来ません、極端な潔癖症などでややもすると一般的の生活からつまはじきされるようなこともあるでしょう。人によっては、さながら宗教家のような生活をするような人も出てきます。天極中殺の人が、サラリーマンのようなお勤めをする人ならば、このような生き方が原因で仕事もはからず、また職場の雰囲気にもなじめないことになるため会社勤めは長続きできないでしょう。また一途で純粋な性情がお人好しになるがちで、他人から騙されやすくなりますから、大きなミスを起こすかも知れたものではありません。ましてや、利害関係が生じる事業家でこの星を持つということは常に危険と背中合わせのようなわけですから、事業家には全くといって良いほど向きません。したがって、学者・宗教家・芸術家、などに向いています。

また現実的な事に対して、全く興味を持たなくなるだけに、金銭欲・名誉欲といった欲望が薄れがちになります。ですから、お金を目的とした人生を送らない方が無難です。

女性が天極中殺をもちますと、家事・炊事などといった家のなかの仕事はてきぱきとこなしていくのですが、友達や隣り近所とのつき合いがまったく苦手なため、どうしても疎遠な人になってしまいます。)